

次年度に向けての取組み目標と具体的な取組み方策

令和4年度取組み目標と方策			
評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[1] 教育活動 (教務)	<ul style="list-style-type: none"> 適正かつ効率的な学校運営 新学習指導要領に対応した教育改革 	<ul style="list-style-type: none"> 在籍管理，成績評価，教育課程等学校運営を引き続き適正かつ効率的に実施できるようにする。 令和4年度から新たな教育課程，成績評価方法を実施する。生徒，保護者への丁寧な説明を行う。 教師一人ひとりの授業に対する研修機会を設け，授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 月例で分掌会議を行い作業工程の見直しを行う。 教科会議，教科主任会議でブレインストーミングを頻繁に行う。 オンラインでの研修機会を4月から用意する
[2] 教科指導 (各教科)	<ul style="list-style-type: none"> 前期課程の学力向上 後期課程の進学実績の向上 新しい成績評価への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 前期課程では外部模試を有効に活用する。成績上位生徒への更なる探究心の醸成と成績不振の生徒への生活面を含めた丁寧な支援を行う。 東大プロジェクトや理系インター運営委員会を有効に起動し，学年と連携し多面的な進路指導を行う。 教科内や教科主任同士での対話を促進しルーブリックや思考コードなどの開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験ごとに結果の分析を行う。 月例で委員会を開催する。
[3] 学校生活 への配慮 (生徒指導)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部と学年との連携 指導方針の浸透 	<ul style="list-style-type: none"> 生活調査票等を活用し，委員会を開催し，生徒指導部，学年とが連携を促す。問題事例の原因と解決法の研究と実践を行う。 学習や生活でサポートの必要な生徒の共有と具体策を実践する。 身だしなみ等の日常生活の指導方針を対話によって浸透させていく。プリントや映像を準備する等の工夫も併せて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生徒観察と年2回のアンケートの実施 時宜に応じて生徒指導理念を伝達していく。 定期的に委員会を開催する
[4] 生徒会・ 部活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が活躍する場面を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を行いながら，可能な限り生徒が活躍できる学校行事を実施する。 課外授業優先日，部活動優先日を設定し，多様な活動を促進する。 生徒だけでなく，保護者と教師の会や同窓会などを活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍を見据えた行事の実施計画の早期検討

評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[5] 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・最難関大学への合格者・進学者を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会を充実させ意欲を喚起する。 ・外部模試を積極的に告知し受験者を増やす。また、事後に結果を分析し、学年や各種委員会で共有する。 ・東大プロジェクトや理系インター運営委員会等と連携し多面的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた進路講演会の実施 ・模擬試験の各機会での実施 ・定期的な委員会の開催
[6] 保健・衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の適切な実施 ・健康管理の支援 ・教育相談の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、安心して保健活動ができるようにする。また、健康診断等でのプライバシー保護を徹底する。 ・欠席報告のオンラインシステムを改善し、生徒・保護者が利用しやすいシステムにすることに加え、教員相互が情報を共有しやすいようにする。 ・前期課程、後期課程生徒の生活に関する調査結果を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で安全な健康診断の早期実施と運営 ・4月から新システムを導入し、適宜改善を施す。
[7] 図書	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムに対応した図書の整備 ・図書館利用率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度からの新カリキュラムで重視される探究型の学習に資する専門的な図書を充実させる。 ・オープンハウスでビブリオバトルを実施したり、library委員会がポスターを作ったりして生徒自身で相互に読書に取り組む姿勢を喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に図書整備計画を立てる。 ・日常的に委員会活動を活性化する。 ・オープンハウスで読書を促進する取組を行う。
[8] 広報	<ul style="list-style-type: none"> ・入試方式のリニューアル ・広報活動の戦略化 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な資質・能力を備えた生徒を確保するために入試方式を大幅に更新する。例えば、学習過程を重視した入試等を新たに導入する。 ・SNSやホームページ等インターネットを使った広報活動を積極的に展開する。 ・コロナ禍後を見据えた受験生との対面での広報機会を模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に入試方式を策定し関係者に告知する ・4月当初からインターネットでの発信の機会を増やす
[9] 管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育方針に基づく経営案の策定 ・組織の意識改革の実施と促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育方針に則り、全ての生徒が活躍できる学校組織づくりに努力する。それに基づき、学年経営案・学級経営案、各教科のシラバスを策定し活動に浸透するように働きかける。 ・組織的に教育活動が出来るように、校務運営委員会や管理職研修・学年主任研修を行い、円滑な組織運営を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春の研修における組織内での業務内容の精選と管理運営 ・管理職研修・学年主任研修の実施と運営

評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
<p>[10] 庶務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式典や保護者会などコロナ禍に対応した中等スタイルの模索 ・ 同窓会活動の再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学式，卒業式等の式典，保護者会などで対面での実施を模索するとともにオンライン配信も可能な限り行う。 ・ 同窓会組織を活性化し，長期的な関係性の中で在校生と卒業生が相互に交流できるようにする。教務部と連携し，チュートリアル制も検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各行事の実施日程 ・ 夏季休暇前に同窓会活動の活性化策の提案